

令和元年8月19日

(あて先) 三鷹市議会議長

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 つなぐ三鷹の会 代表者名 成田 ちひろ

1 視察年月日	令和元年8月15日(木) 午後1時30分～午後2時30分
2 視察者氏名	成田ちひろ
3 視察先	東京都 墨田区
4 視察項目	ガバメントクラウドファンディング(以下GCFと表記)の先進事例「すみだの夢応援助成事業」について
5 視察結果等	<p>(1) すみだの夢応援助成事業について</p> <p>(ア) 概要</p> <p>2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックを契機に地域活性化のプロジェクトとして、地域課題や社会的課題の解決や文化芸術活動による地域力の向上を目的に<u>墨田区内で実施する「新規性のある意欲的なプロジェクト」</u>に対し<u>助成するために、ふるさと納税の寄付金の使い道をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄付を募るGCFの手法を用いた制度を立ち上げた。</u></p> <p>(イ) 特徴等</p> <p>①一般の助成金とは異なり、<u>墨田区が提供するGCFのサービス(※)</u>を活用して集めた寄付金全額を助成金として交付する。なお、目標設定額は100万円以上としている。</p> <p>(※…ふるさと納税制度を活用して行う。ふるさと納税ポータルサイトの「ふるさとチョイス」を利用。)</p> <p>②応募できる団体は、<u>法人格を有する墨田区内外の事業者</u>。<u>寄付金を募るための情報発信やPRは事業者自身が行う。</u>集まった資金額で、事業を実施する。</p>



③墨田区が行うこと

- ・助成事業の募集、審査、決定と実施報告会の開催
- ・ふるさとチョイスとの契約、区のページの作成、手数料の支払い、寄付の受け入れ事務、事業者への寄付者情報の提供等
- ・GCFを行っていることのPR

(ウ) 過去事例、実績

- ・平成29年度「まちなか農園」開設による魅力的なまちづくり
目標額100万円に対し、126.5万円を達成。現在も農園は続いている。
- ・平成30年度「音楽の力で人とまちを元気に」プロジェクト
目標額2,500万円に対し、達成額3,089.2万円を達成。コンサートのほかにも、小澤征爾氏との過去の演奏音源をアーカイブ化し将来の財産として残す活動も実施。
- ・実績（平成29年度から実施）

平成29年度 6事業 寄付額合計2,244万円

平成30年度 4事業 寄付額合計3,376万円

(エ) 事業実施に伴うメリットと今後の課題等

①メリット

- ・墨田区のメリット

区内外からユニークな発想の事業を呼び込むことで区内の新たな人材の交流や地域の活性化が見込める点、行政だけでは実現が難しいきめ細かい公益的な事業の提供が可能となる点、区のPRができる点。

- ・事業者のメリット

手数料がかからずGCFを実施でき、PRの工夫次第で多くの活動資金を得られる点、お礼の手紙や返礼品を通じて、寄付者とのつながりを持てる点。

- ・寄付者のメリット

具体的な事業を選べる点、少ない負担で事業を応援できる点。

②今後の課題等

- ・全国から寄付を募ることの難しさ

現行のふるさと納税制度では、区内独自の課題に取り組む草の根的な活動や地域密着型の事業に対し、寄付金が集まりにくい。また、すみだの夢応援助成事業の趣旨により、団体の返礼品は事業に関するものと指定しているため、返礼品選びも難しい。

- ・区内在住者からの寄付を募ることの難しさ

令和元年度より、ふるさと納税制度で、墨田区内在住者に対しての返礼品ができなくなったことも影響してくると考えられる。

- ・応募する団体が限られる傾向

寄付額が目標額を下回っても事業を実施する(規模を縮小して実施することは可能)ため、ある程度資金力や実行力のある団体でない、事業の実施が重荷になる可能性があり、制度を利用しづらい。

- ・今後の展開

2年間実施し、課題も見えてきた中で、新たな制度設計について考える必要がある。また、すみだの夢応援助成事業は、2020年のオリンピック・パラリンピック開催を契機に立ち上げたものということからも、来年を目途に今後の対応策や当事業自体の在り方も検討するとしている。

(2) 考察

今回、墨田区のGCFの取組みを学び、三鷹市にどのように生かすことができるかを以下に述べる。

まず一つ目は、率直に、三鷹市でも、このような取組みがあれば応募したい事業者がいるのではないかという感想をもった。三鷹市では、市が事業者としてのクラウドファンディングを過去2回行っているが、自治体の手の届かないようなきめ細やかな公益的な地域の事業がGCFによって可能になるという点については、大変興味深く、積極的な検討をしていくべきと考える。

二つ目に、ふるさと納税制度が、本来の趣旨から離れ返礼品目的となっている中、流出を止めることはなかなか難しい。であるならば、流入額を増やすような取組みについて、本気で知恵を絞ってみるべき時期に来ているのではないだろうか。

今後、多くの方の共感を集め、全国的な展開を望めるような事業自体の検討や、GCFを使うことや寄付メニューを増やす等の手法の検討も必要である。全国に先駆けて、本来の趣旨に沿うふるさと納税を活用した三鷹市らしい取組みに挑戦してほしいと考える。